

令和8年度 こども・若者会議

ひめじV O I C Eプロジェクト

＜提案に対する市の考え方＞



こども・若者会議でこども・若者のみなさんからいただいた提案に対する市からのフィードバックをまとめました。

令和8年(2026年)9月

姫路市こども総務課

こども・若者会議の目的

こども・若者会議は、こどもの意見表明権を大切にすることを目的に、
姫路市の取組について、こども・若者のみなさんの思いや考えを市に届ける場として開催しました。

こども・若者会議に参加したこどもたちは、
姫路市の提示したこども・若者に関するテーマについて、グループに分かれて話し合い、
会議の最終日には、市長に話し合った内容を伝える「意見発表会」を実施しました。

また、会議では、こども・若者のみなさんが安心して楽しく話し合えるように、
大学生や市の職員がグループワークに参加し、
グループでの話し合いの進行をサポートしました。



こどもの意見表明権とは、こどもの権利の1つで、

こどもは自分にかかわることについて、自由に意見を表すことができる権利のことです。

令和8年度の開催内容

参加者	小学生1名、中学生6名、高校生12名
実施日	①8月3日(月)、②7日(金)、③17日(月)、④25日(火)の全4回
実施場所	第1回～3回：姫路市総合福祉会館会議室 第4回：姫路市役所（姫路市議会本会議場）
テーマ	①わたしたちの居場所づくり ②わたしたちの住みたいまち ③わたしたちのスマホとの付き合い方

会議の流れ

第1回

- ・オリエンテーション
- ・テーマについて市からの説明
- ・グループづくり、話し合うテーマの決定



第2回

- ・テーマの内容について「現状と理想の分析」を行い、自分たちの思いを話し合う

第3回

- ・話し合いをかさね、市への提案内容を固める
- ・意見発表会に向けた資料の作成
- ・発表の練習



第4回

- ・市長や市の職員へ話し合った内容を発表（意見発表会）
- ・市長との意見交換会

こども・若者会議への参加が難しい方を対象に実施した、Zoomによるオンライン会議（7月28日）では、6名のこども達が意見を出し合いました。

また、事前に意見の募集を行ったwebアンケートフォーム（6月1日～7月15日）により、6件の意見が提出されました。

いずれの意見も、実際の会議で話し合いの参考として取り上げました。



テーマ①

わたしたちの居場所づくり

【内容：中高生の居場所が欲しい！】



提案内容	市の考え
無料で使える中高生の居場所を増やしたいと思い、児童館や児童センターが活用できるかもしれないと考えたが、 「近くにない」 「同年代（中高生）が少ない」 「夜に開いていない」 「今利用している人が不便になる」 という理由から難しい。 そこで、 ●空き家などの空いているスペースを活用するのはどうか 【具体的な希望】 ・費用がかからない ・学校・駅から近い ・明るい雰囲気 ・放課後（16～19時）に開いている ・Wi-Fiがある ●『遊び』『自習室』『両立』といった目的別で環境を整えたい	・皆さんが挙げた具体的な希望は、普段利用している場所や、その理由をもとに考えられた、分かりやすく現実的な提案だと思います。 ・姫路市では、「姫路市公共施設等総合管理計画」に基づき、将来にわたって、無理なく公共サービスを続けられるように、公共施設の見直しや再編を進めています。再編に当たっては、床面積を減らしながらも、機能やサービスをより充実させる「縮充」という考え方を基本にして、地域ごとの特徴や課題に合った公共施設のあり方を考えていきたいと思っています。 ・皆さんから提案いただいた、空き家などの使われていない施設を活用して、遊び道具や自習室を備えた中高生の居場所をつくることは、地域の活性化や中高生同士の交流につながるきっかけになるのではないかと思います。また、姫路市が公共施設の目指す姿として掲げている「創造と交流を生む施設」の実現にもつながる、大切な視点だと考えています。これから公共施設を再編するときには、今回の提案を参考にしながら、皆さんが「使ってみたい」と思えるような施設の活用方法を検討していきたいと思っています。 ・中高生の居場所づくりは、市だけの力で実現することが難しい課題でもあります。学校や地域の方、企業など、民間の力も借りながら、皆さんが安心して過ごせる場所について考えていきたいと思っています。

テーマ①

わたしたちの居場所づくり

【内容：自習室がなくて困っています！】



提案内容	市の考え
・ 市民会館が閉館してしまう ・ 現在の自習室には課題がある 「場所（アクセスが悪い）」 「使いやすさ（満席で使えない、Wi-Fiがない、利用状況がわからない）」 「宣伝（自習室があることを知らない人が多い）」 という点を踏まえた提案 ● 姫路駅近くの通りのシャッター街や、今後公共施設を再編する際にその一部を利用する ● 利用状況がHPでリアルタイムにわかるようにする ● 利用目的に合わせ部屋を分ける ● 学校にチラシを配るなど、宣伝に力を入れる	・ 市民会館内の青少年センターの閉館に伴い、自習できる場所が少なくなるのではないかという不安については課題として受け止めています。 ・ 姫路市では複数の市立施設、約 250 席で自習が可能であり、また試行的な取り組みとして、期間限定で一部の公民館や市役所の議会会議室を自習スペースとして利用できる取り組みも行っています。さらに民間では、市内の大学図書館や店舗など地域のさまざまな場所で、自習スペースの確保にご協力いただいています。 ・ まずは、より多くの人に、自習できる市立施設があることを分かりやすく知ってもらうことが大切だと考えています。そのため、自習に利用できる市立施設の情報を皆さんに分かりやすく伝えられるよう、スマートフォンで検索できる仕組みを整えたり、実際の部屋の写真や場所をグーグルマップで確認できるようにしたりする取り組みを進めています。 ・ 今後は、自習スペースをさらに増やせないか、今ある市立施設の活用を検討するとともに、民間企業にもご協力いただけるよう検討するほか、自習スペースを検索できる仕組みの周知に取り組んでいきます。

テーマ②

わたしたちの住みたいまち

【内容：姫路を住み続けたい街へ】



提案内容	市の考え
● 姫路を住み続けたい街にするために大切にしたいこと ・ 地域に住んでいる人、よく知っている人自身が地域を紹介、アピールすることができる ・ 公共交通機関の利用の仕方がわかりやすい ・ 地域の魅力や課題が様々な人に伝わる ・ いろんな人とつながることができる ● 「姫路ぶらり VR ムービー」 ・ 観光名所や姫路にある町村へ実際に向かう様子が撮られた動画や各地域の住人、地域民 bot による紹介動画が配信されるアプリ	・ 「姫路ぶらり VR ムービー」で地域に住んでいる人や、「地域民 bot」のように姫路の魅力を発信している人が案内役になって、電車やバスに乗りながらまちを紹介する。これは、若い皆さんならではの、“今っぽくて楽しい発想”だと思います。皆さんの提案を、動画という一つの形にまとめているところも、とてもよかったです。 ・ 姫路市では、「住むほどに“好き”が深まる“姫”のまち」を合言葉に、Instagramなどで、まちづくりに関わっている人たちの活動や、姫路での暮らしを紹介しています。播磨地域でも、「はりまサタデー9」というテレビ番組で、電車に乗ってぶらり旅をするような感覚で、JR 沿線の観光地などを紹介しています。 ・ 皆さんの提案は、こういった姫路市が進めている「ふるさとプロモーション」や、播磨地域での取組ともつながるところがたくさんあります。これからの姫路・播磨の魅力発信につながる、貴重なアイデアだと感じました。 ・ これからは、「地域民 bot」のように、自分たちで姫路・播磨の魅力を発信している人たちと、どんなふうと一緒に活動できるか考えていこうと思います。皆さんにも、ぜひ一緒に考えてもらえたら嬉しいです。

テーマ②

わたしたちの住みたいまち

【内容：市外の人に「姫路に住みたい！」
と思ってもらうためには？】



提案内容	市の考え
市外の人に「姫路に住みたい！」と思ってもらうための提案 ●情報発信の工夫 ・ SNS アカウントを増やす ・ 流行に乗る ・ 外国の方向けに AI などの翻訳機能を利用する ●交通の利便性 ・ 目的地までの直行便を作る ・ 姫路市限定の交通利用券を作る ・ 姫路東側の利便性を上げる ●姫路城以外の魅力を知ってもらう ・ 姫路にアクセスを増やす ・ 生活に必要な場所を整備する ・ 外国人向けの店を作る	・ 姫路に観光に来て、「姫路城だけ見て、そのまま帰る」という人が多いため、皆さんの「姫路城が目立ちすぎている」という指摘は、とても大切な気づきだと思いました。 ・ 姫路市としても、駅前から姫路城までの大通りをイルミネーションで彩ったり、播磨地域のいろいろな観光地を巡るツアーをつくったりして、「せっかく来たならお城以外の場所にも行って見て！」という取組を進めています。また、市民の皆さんが SNS を使って、自分たちの言葉で姫路の魅力を発信する取組も行っています。 ・ 若い皆さんが、「姫路城以外の魅力をもっとたくさんの人に知ってほしい！」と考えてくれているのは、本当に嬉しいことです。それに、皆さんの意見には、観光客だけでなく、今姫路に住んでいる人たちが「姫路っていいな」「もっと姫路を好きになりたいな」と思えるヒントも、たくさんありました。 ・ 「姫路・播磨に住みたい、住み続けたい」と思ってもらえるまちにするために、私たちも頑張りますので、一緒に「ここが姫路の好きなところ！」「こんなところが楽しいよ！」という姫路・播磨のいいところを発信していきましょう。

テーマ③

わたしたちのスマホとの付き合い方

【内容：スマホとの付き合い方】



提案内容	市の考え
スマホ依存を減らすためにどうすればいいか？ ●理想の状態は「学生のうちにスマホの利用の方法・時間をコントロールする能力を身につける」こと ●ワークシートの活用 ・家庭内でのルール作りをサポートする内容（依存チェック・ルールの例など） ・家族と話し合うきっかけづくり ●情報発信 ・Instagramのリール動画 ●スマホ以外の娯楽やする事づくり ・デジタルデトックスを目的としたイベントの開催	・自分たちのスマートフォンの利用実態を改めて見つめ直した上で、「理想の状態」として『自分たちでコントロールする能力を身につける』と定義したこと、非常に感銘を受けました。 ・現在、姫路市では、皆さんがスマホと上手に付き合う社会を目指して、スマホの利用状況を調査したり、専門家の知恵も借りたりしながら、スマホ利用に関するルールづくりに取り組もうとしています。その中で、家族で話し合うきっかけとなるワークシートはとても有効な提案だと思いました。とてもわかりやすい言葉でまとめられており、中学生や高校生だけではなく、小学生にも伝わる素晴らしい内容になっています。それぞれの家庭の状況や考え方は違うので、家族が互いの考えを聴き、納得できる方法を探ることが大事だと思います。 ・Instagramのリール動画による情報発信も、若者むけの発信方法としてふさわしいと思います。各学校の生徒会などが中心になって作成し発信することもできるかもしれません。 ・デジタルデトックスを目的としたイベントの開催は、自分たちで考えて運営するなど、若者主体の取組にすることで多くの共感を得られると考えます。家島で毎年開催されている「オフラインキャンプ」などの取り組みも参考にしながら、どんな機会があればデジタルデトックスをよい形で実践できるのか、検討したいと思います。

提案内容	市の考え
スマホを学校等で活用したい ●現在活用できていない理由（邪魔・不正行為に繋がること、紛失や故障の際の問題、いじめやプライバシーの問題）については、学校でのルール作りや、自己責任等で対応する ●緊急時の安全確保のための情報入手・連絡手段になることや、交通状況の確認ができるという利便性など、メリットが大きい ●思い出作りや、情報リテラシーの教育、自分の興味があることを深めることにも使いたい	・災害時や緊急時の連絡手段や、学習への利用としてのスマホの有効性は高いですが、一方で様々な課題があります。その課題に対して、皆さんが「自己責任」や「ルール作り」についても自ら触れていた点に誠実さを感じました。 ・教育現場における現実として、日本全国でネット依存の疑いがある中高生は4人に1人と推計されています。長時間使用による睡眠不足は、皆さんの成長期における脳や体の発達に深刻な悪影響を及ぼします。また、SNSでの何気ない一言が取り返しのつかない「いじめ」に発展したり、見知らぬ大人とのトラブルに巻き込まれたりする事件も後を絶ちません。 ・大人が「規制」や「禁止」を口にするのは、皆さんの自由を奪いたいからではなく、皆さんの心と体の健康、そして何より「未来」を守るためだと考えているからです。 ・「規制」とは、押し付けられるものではありません。皆さんが提言してくれたように「自分たちでコントロールする」ことができるようになるため、また、今回の提言内容をどう実現していくかについて、一緒に考えていきたいと思います。



さいごに

会議では、たくさんの提案をいただき、ありがとうございました。

みなさんが、姫路市の提示したテーマについて、熱意をもって真剣に考えてくださった姿に、わたしたち市役所職員も深く感銘を受けました。

いただいた提案は、今後の姫路市の取組に反映できるよう、しっかりと検討していきます。

すぐにできること、少し時間がかかることなど様々ですが、みなさんの声を大切に、より良いまちを目指していきます。



これからも、姫路のまちについて考えて、どんどん声を届けてください。

このたびは本当にありがとうございました。

